ちょっと名大史

212

80年前の研究所と実験所 ― 名帝大創立直後の民間寄附 ―

名大は、1939(昭和14)年4月に名古屋帝国大学として創立して以来、国だけではなく地域その他の人々によって支えられてきた大学です。そもそも、その創設費が愛知県から全額を寄附されたものでした。最も新しくは、現在、オークマ株式会社の寄附によるオークマ工作機械工学館の建設工事が進んでいます。民間からの寄附で最も古いものとしては、早くも創立年に次の2件が見られます。

1つは、蓼科(たてしな)高原気候医学研究所の建物です。1939年7月7日付で、長野県諏訪郡北山村（現茅野(ちの)市）の敷地に、建坪35坪余りの建物が建設寄附されました。寄附者は、株式会社野崎事務所（現ナイカイ塩業株式会社）社長の野崎丹斐太郎(のざきにいたろう)です。岡山県出身で、会社も瀬戸内地方にあり、寄附の経緯は不明です。蓼科研究所では、医学部衛生学講座が中心となり、高原医学の本格的研究を行いました。戦後、この建物は宿泊施設としても使われ、現在は宿泊施設はなくなりましたが、「高原気候医学研究所」の名称は残っています。

もう1つは、菅島(すがしま)臨海実験所の建物です。1939年12月6日付で、三重県志摩郡菅島村（現鳥羽市）に実験室と宿舎147坪余りが寄附されました。寄附者は、椙山女学園の創業者として知られる椙山正弐(すぎやまま さかず)です。その子息椙山正雄は、東京帝大理学部を卒業後、博士号を取得し、父正弐の望みもあり、郷里の近くで研究する場所を探していました。1939年3月に名古屋医科大学（名帝大医学部の前身）の研究嘱託となり、実験所の設置に奔走しました。

海産生物の研究を行う菅島臨海実験所は、1942年4月に理学部附属施設となりました。椙山正雄はここの助教授となり、戦後は長く教授として所長を務め、生物学以外の分野や他大学にも広く門戸を開いて研究・教育を行いました。現在は、大学院理学研究科附属臨海実験所となっています。

1

2

3

4

名大の臨海實驗所
け・伊勢灣の賞望で開所式
5

1　野崎丹斐太郎（1892－1976）。京都帝大卒業後、家業の製塩業を継ぎ、工程の近代化を進めて日本有数の製塩会社に発展させた（写真提供：ナイカイ塩業株式会社）。
2　椙山正弐(1879－1964)。この当時、すでに裁縫女学校、高等女学校、女子専門学校、女子商業学校を設立していた（写真提供：椙山女学園歴史文化館）。
3　椙山正雄（1908－1993）。ウニの受精研究で著名。名大を定年退官後、椙山女学園理事長を務めた（写真提供：椙山女学園歴史文化館）。
4　1941年頃の蓼科高原気候医学研究所。
5　菅島臨海実験所の開所式を報じる大阪朝日新聞(名古屋本社版、1939年12月18日付)。椙山正雄の顔写真が掲載されている。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学基金のご案内　名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

人を伸ばす、明日を創る、世界と歩む
NAGOYA UNIVERSITY プロジェクト NU MIRAI

特定基金　名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただける事業もご用意しております。

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office（DO室）あて（電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp）にお願いいたします。

■ 詳しくはホームページをご覧ください。
名古屋大学基金　http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/
アクセスはこちらから